



# きいむんの どろ〜ちゅいむにい〜 - 第5回 - テーマ エイサー

今日から8月、夏真っ盛りですね。今年もシチグワチ（旧盆）がやってきます。シチグワチといえば、エイサーです。

## 沖縄の夏の風物詩 エイサー！

エイサーとは、本来旧暦の7月15日の盆の時期に地域の家々を巡回し（道ジュネー）、祖先の霊の供養のために行う宗教儀礼です。エイサーの起源は諸説あるといわれ、その一つとして伝わっているのが、「ニンブチャー」「チョンダラー」又は「京太郎」です。

エイサー隊の道化役である、白塗りの顔のチョンダラーが見物人の中の幼子にちょっかいを出して泣かれる姿は、微笑ましい沖縄の夏のワンシーンですね。

## チョンダラーの正体とは！？

ではチョンダラーとは一体何者なのか？彼らは本土から沖縄に渡ってきた芸能集団で、正月や葬式の際に人々の家に呼ばれ、念仏を唱え、芸をして回ったニンブチャー（念仏者）であるといわれています。実は、彼らの念仏踊りがエイサーの起源という説があり、家々の葬式を回るニンブチャーは人々の畏怖と蔑みの対象であったと伝えられています。エイサーだけでなく、沖縄の民俗芸能にも影響を与えたと考えられているニンブチャーの詳細は、まだわかっていない部分もあるようです。沖縄では誰でも知っている「チョンダラー」の正体が謎に包まれているというのは、実に興味をかき立てられますね。

## 現代のエイサー

元来エイサーとは、旧盆に先祖の霊と共に来た餓鬼の供養のために行われました。今ではその様相は大分変わって来ているといえるでしょう。現代のポップな沖縄音楽にのせて踊るエイサーは人気を博していますね。最近では沖縄県外でもその知名度は高まってきています。時代を経て変わっても、エイサーが沖縄の夏の風物詩であることに間違いはないでしょう。

琉球大学附属図書館の「沖縄情報統合システム」「沖縄文献情報データベース（BIDOM）」「琉球・沖縄貴重資料デジタルアーカイブ」などの検索システムを使い「京太郎」、「チョンダラー」もしくは「エイサー」等のキーワードで検索すると幾つもの記事にヒットします。是非一度、調べてみてはどうでしょうか。

《参考文献》

『沖縄の民俗芸能』久万田晋著

『エイサー 360度 歴史と現在』沖縄市企画部平和文化振興課編集

『沖縄大百科事典』沖縄タイムス社

『宝玲叢刊第5集 琉球風俗絵図』